

もも・ネクタリン特報

摘果作業の遅れが目立ちます。果実肥大不良が心配されますので、早期摘果をすすめてみましょう！！

◇せん孔細菌病発生地帯を中心に、春型枝病斑が多数確認されています。すでに、葉への感染が確認されている園地もありますので、引き続き、枝病斑の切除を徹底してください。
(詳細は 5/16 発行、ももネクタリン特報・号外をご覧ください)

もも

◇定期防除（殺菌剤）は予防が前提です。降雨が続く前の散布を実施ください。

*隣接する園地や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。

*ももとネクタリンの混植園は、ネクタリンの防除を実施してください。



第6回 定期防除

散布時期：6月3日～10日 *散布時期は目安です。
(*前回散布から10日後)

せん孔細菌病の発生園は、マイコシールドを加用散布して下さい。(注意事項①)

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤 20ml
デランフロアブル 166ml (7日前、4回)
アルバリン顆粒水溶剤 50g (前日、3回)

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病虫害：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病
モモハモグリガ、アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類

10a 当り散布量： 500ℓ

【注意事項】

- ①せん孔細菌病の発生が心配される場合は、マイコシールドの1,500倍(21日前、5回)を加用する。
②アルバリン顆粒水溶剤に代えて、バリアード顆粒水和剤の4,000倍(前日、3回)でもよい。

特別散布(せん孔細菌病対策)

散布時期：第6回散布から7～10日後

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤 20ml
マイコシールド 66g (21日前、5回)

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病虫害：せん孔細菌病 10a 当り散布量： 500ℓ

裏面はネクタリンの防除、今後の管理作業です

第6回 定期防除

散布時期：6月2日～9日 * 散布時期は目安です。
(* 前回散布から10日後)

散布薬剤： 水
展着剤
デランフロアブル
ダントツ水溶剤

100ℓ
20ml
166ml (14日前、2回)
25g (3日前、3回)

散布日 月 日
散布量 ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病
シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類、カメムシ類
10a 当り散布量： 500ℓ

【注意事項】

①せん孔細菌病の発生が心配される場合は、マイコシールドの1,500倍(28日前、5回)を加用する。
②ダントツ水溶剤に代えて、バリアード顆粒水和剤の4,000倍(3日前、2回)でもよい。
③カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤2,000倍(前日、3回)を特別散布する。

特別散布(せん孔細菌病対策)

散布時期：第6回散布から7～10日後

散布薬剤： 水
展着剤
マイコシールド

100ℓ
20ml
66g (28日前、5回)

散布日 月 日
散布量 ℓ

サマークリスタル等、収穫前規制に注意

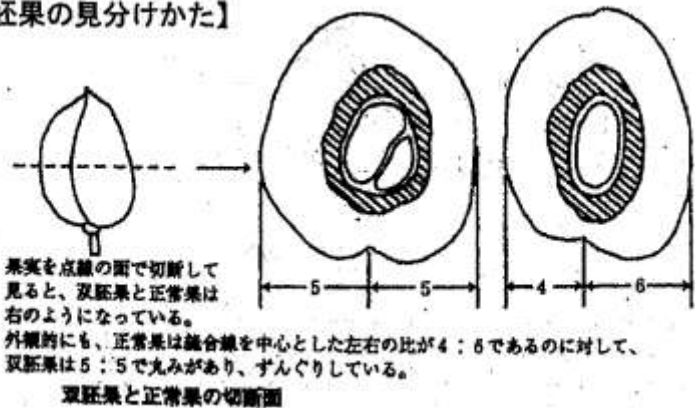
対象病害虫： せん孔細菌病 10a 当り散布量： 500ℓ

摘果：急に強い摘果を行うと生理落果や核割れ発生の要因となりますので、必ず予備摘果と仕上げ摘果に分けて実施し、樹勢にあった着果量になるよう、ていねいに行なってください。結実量が不足する品種は、品質・着果位置が悪くても基準量を確保しましょう。

	実 施 時 期	程 度
本摘果	満開後 50 日まで (6 月 20 日頃までに)	品種や樹の大きさ・樹齢・土壌の肥沃度を考慮して実施する。 果実の選択：大きくて偏平なもので肌に光沢があるものが良い。つやがなくなった果実は生理落果する。大きくても丸い果実は双胚果である。 (双胚果は核割れや落果の一因となる)

* 袋掛けの際に再度見直しを行う。なお、無袋においても引き続き見直し摘果を行ない7月上旬頃までに仕上げる。

【双胚果の見分けかた】



【結果枝別の着果量】

結 果 枝	予備摘果	本摘果
長 果 枝	2～3個	1～2個
中 果 枝	1～2個	0～1個
短 果 枝	0～1個	0～1個 (5～6本に1個)